

◇ 子どもの頃の体験が豊富な大人ほど、学歴が高い・収入が多い・読む本の冊数が多い・結婚している・子どもの数が多い、という割合が高い。

【成人調査】

クロス集計の結果、子どもの頃の体験が豊富な大人ほど、最終学歴が「大学や大学院」と回答した割合が高く、その他、現在の年収が高かったり、1ヶ月に読む本の冊数が多くなる傾向がみられる。

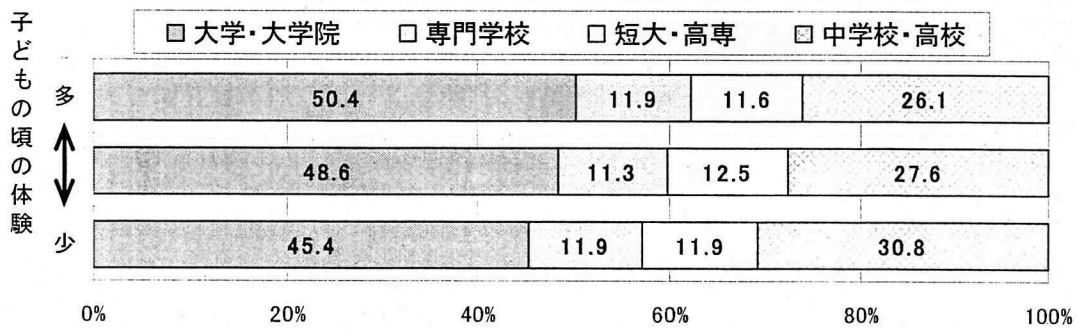
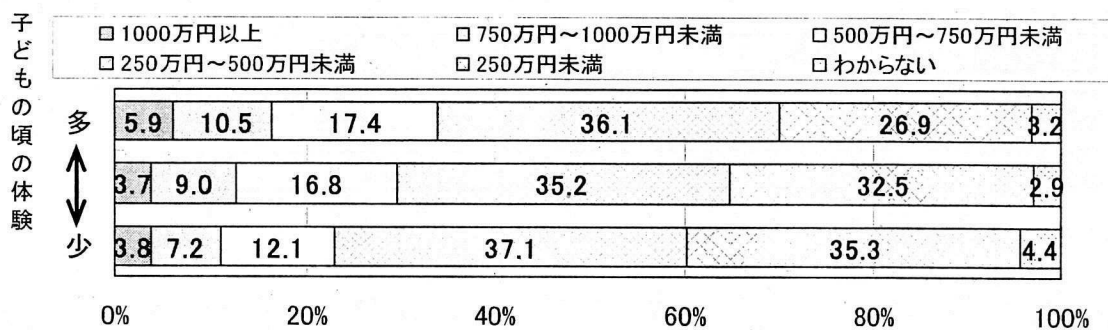


図 3-5-1. 子どもの頃の体験の多寡と「最終学歴」との関係



就業者(3,527人)のみ

図 3-5-2. 子どもの頃の体験の多寡と「現在の年収」との関係

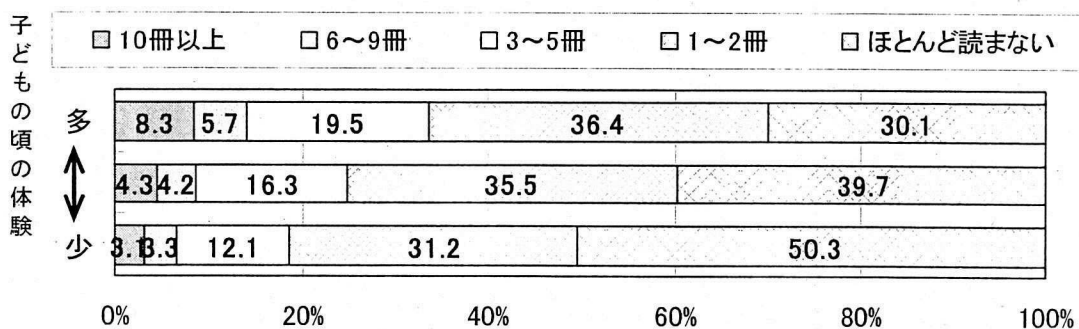


図 3-5-6. 子どもの頃の体験の多寡と「1ヶ月に読む本の冊数」との関係

クロス集計の結果、子どもの頃の体験が少ない群より多い群の方が、結婚している割合が高い。さらに、子どもが2人以上いると回答した割合が高い。

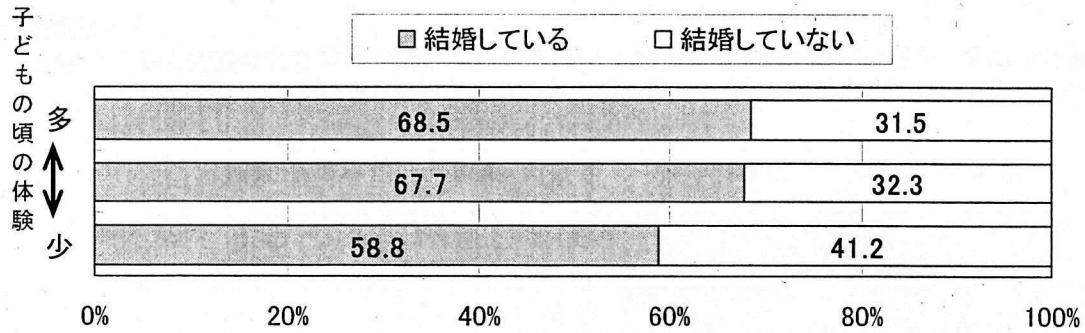


図 3-5-4. 子どもの頃の体験の多寡と「結婚の有無」との関係

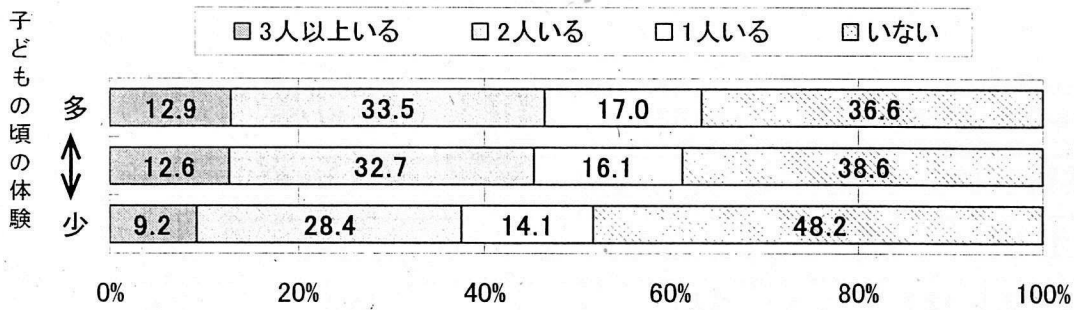


図 3-5-5. 子どもの頃の体験の多寡と「子どもの数」との関係

◇ 子どもの頃の体験が豊富な大人ほど、「丁寧な言葉を使うことができる」といった、日本文化としての作法・教養が高い。

【成人調査】

子どもの頃の体験が豊富な大人ほど、「丁寧な言葉を使うことができる」といった「文化的作法・教養」が高い。そして、「文化的作法・教養」5項目は、体験の6つの各カテゴリすべてと幅広く関係している

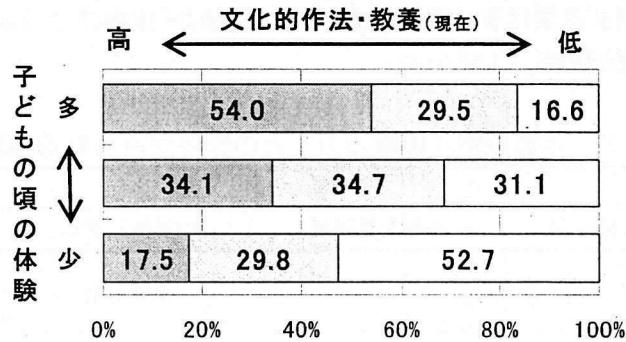


図 3-6-1. 子どもの頃の体験の多寡と「文化的作法・教養」との関係

表 3-6-1. 子どもの頃の体験と「体験の力」のカテゴリ間関係(相関係数)

	自然体験	動植物とのかかわり	友だちとの遊び	地域活動	家族行事	家事・手伝い
自尊感情	.247**	.218**	.252**	.269**	.265**	.185**
共生感	.292**	.321**	.320**	.324**	.316**	.288**
意欲・関心	.274**	.273**	.299**	.315**	.299**	.296**
規範意識	.175**	.166**	.243**	.190**	.254**	.208**
人間関係能力	.285**	.271**	.333**	.366**	.321**	.304**
職業意識	.185**	.187**	.232**	.229**	.232**	.215**
文化的作法・教養	.304**	.314**	.332**	.346**	.377**	.329**

**p<.01

「文化的作法・教養」のカテゴリのみ、子どもの頃の体験のカテゴリそれぞれとの相関係数がすべて0.3以上を示す。

表 3-6-2. 子どもの頃の体験と「体験の力」のカテゴリ間関係(相関係数上位の頻度)

	自然体験	動植物とのかかわり	友だちとの遊び	地域活動	家事手伝い	家族行事
自尊感情	4	0	8	8	2	3
共生感	4	6	5	2	4	4
意欲・関心	1	1	6	6	9	3
規範意識	0	1	8	2	6	8
人間関係能力	1	0	7	9	6	2
職業意識	0	0	7	4	9	5
文化的作法・教養	2	2	3	6	8	4

「文化的作法・教養」の5項目と相関係数の高い子どもの頃の体験の項目の頻度をカテゴリで数えてみると、「文化的作法・教養」を構成する項目と関係がある子どもの頃の体験の項目は6つすべてのカテゴリから2項目以上数えることができる。これは「共生感」も類似した結果が出ているが、その他のカテゴリについては、偏りがみられる。